

特集

支援対象5カ国の 中学校の教育費の比較

- MS & ADインシュアランス グループの
バレンタイン・チャリティーコンサート
- 書き損じハガキ支援校 札幌市立向陵中学校
- 轡田隆史氏の連載エッセイがスタート



中学校の教育費の現状

一般財団法人 民際センター

理事長 秋尾晃正

最近、世界の政治経済の変化の速度は早い。中でもGMS（グレーター・メコン・サブリージョン）と呼ばれるタイ、ラオス、カンボジア、ベトナム、ミャンマー5ヶ国は顕著で、総人口2億3,600万人の魅力ある投資対象国として、現在、最も脚光を浴びています。

小乗仏教という共通点はあるものの、社会体制、経済発展、教育事情には大きな違いがあります。しかし、海外からの投資が拡大し、経済圏が総体的に発展すれば、経済圏全体の格差縮小や貧困削減が可能になるでしょう。例えば、職を得たお兄さんやお姉さんが弟や妹の教育を支援したタイのように、貧しい地域の若者が職を得ることで教育が普及するのではないでしょうか。マクロ的には、企業からの税収で国の予算も増え、教育環境も充実するはずです。こうして、国内に良い循環が生まれます。

4月に来日したアウン・サン・スー・チーさんが日本に投資を呼び掛けていました。海外からの投資が経済発展の出発点ですが、投資を呼び込むためには、安価で良質な労働力が必要です。子どもたちが中学を卒業して、さらに職業訓練校で技術を学ぶ教育環境が理想的です。しかし、小学校はどこの村にも徒歩で通学可能な地域にあるものの、中学校は複数の村に1校あれば良い方で、中学校までの通学距離が障壁となります。加えて昼食代等のねん出が難しく、中学就学を断念する生徒の数は計り知れません。

以上から、今号では通学費と昼食代も加えた上記メコン5ヶ国の奨学金対象中学校の各家庭が負担する1年間の教育費の調査を実施しました。毎年のインフレもあるので、今後、比較調査を3年ごとに実施し、調査結果に基づいて奨学金支給額を変更する予定です。

各国事務所（EDF）の責任者は異口同音に、初等教育から中等教育の拡充による人材育成が個々人の貧困脱却の鍵となると指摘しています。貧しい家庭の子どもの中学就学・卒業が奨学金で可能になれば、自作農の子どもたちも自費で中学就学をする相乗効果になります。タイでそうだったように、ダルニー奨学金の事業が各国の中学就学・卒業が普通になる時代の形成を促す運動になるでしょう。この変化を加速させるのが、私たちの使命であると考え、各国EDFの責任者と日本事務局の6カ国が一丸となって、その実現に努力しています。今後ともさらなるご支援とご理解をよろしくお願ひいたします。

※前号でもお知らせしましたが、メコン5ヶ国の教育事情の比較を通じて皆様の理解がますます得られるように、ダルニー通信の最初の数ページに各国事務所の責任者が教育に関する情報を掲載します。

メコン5カ国及び日本の基本情報

	一人当たりGDP	順位	人口(人)	面積(km ²)	小中高年数	始業月
カンボジア	\$897	165	1,500万	181,035	6+3+3=12	10月初旬
ラオス	\$1,303	153	600万	236,800	5+4+3=12	9月初旬
ベトナム	\$1,392	151	8,900万	330,957	5+4+3=12	8月初旬
タイ	\$5,318	96	6,400万	513,120	6+3+3=12	5月初旬
ミャンマー	\$1,144	159	6,200万	676,578	5+4+2=11	6月初旬
日本	\$46,407	20	1億2,790万	377,930	6+3+3=12	4月初旬

(国連の2011年度統計より)

メコン5カ国の教育事情

民際センター各国事務所(EDF)が独自に調査した5ヶ国の中学校に通うのに必要な1年間の金額 (US\$)

No.	費用項目	カンボジア	ラオス	ベトナム	タイ	ミャンマー
1	授業料 (原則として各国無料です)					
2	図書使用料、コンピュータ使用料、などの費用	7.00	22.50	10.00	23.33	10.58
3	制服 (Yシャツとズボンまたはスカート)	25.00	25.00	15.00	16.67	28.23
4	制服以外 (ベルト、靴、靴下など)	15.00	25.00	15.00	16.67	14.11
5	ボーイスカウト・ガールスカウトの制服		1.90		18.33	
6	体操着			7.50	13.33	11.76
7	教科書以外の学習教材		22.50	7.50		2.35
8	補助教材及び配布資料代	10.00		7.50	33.33	
9	文房具	15.00	7.50	3.00	10.00	14.11
10	ノートと紙	7.00	7.50	3.80	10.00	4.23
11	その他	46.08	9.40	10.00		
	小計 (1)	79.00	121.30	79.30	141.66	85.37
	「11その他」の内訳					
	その他 1: 試験の印刷・紙代	1.20				
	その他 2: 補習	26.00				
	その他 3: 個人への教材	0.13				
	その他 4: クラスの備品	0.25				
	その他 5: 自転車メンテナンス	2.50				
	その他 6: 先生への謝礼	0.50				
	その他 7: セレモニー	0.50				
	その他 8: 駐車代	15.00				
	その他 9: 防寒服代		6.30			
	その他 10: 傘代		3.10			
	その他 11: 各クラスの基金			2.00		
	その他 12: 災害時のお見舞い金			5.00		
	その他 13: 保険			3.00		
12	昼食代	52.00	105.00	142.78	106.67	63.50
13	通学費	117.00	112.50	18.00	105.00	118.00
	小計 (2)	169.00	322.50	160.78	211.67	181.50
	合計：小計 (1) + 小計 (2)	248.00	443.80	240.08	353.33	266.87
	中学純就学率 男子・女子 (2007-2010ユネセフ)	36%・32%	39%・33%	統計なし	68%・77%	49%・50%

●この調査には2つの目的があります。1つは26年前に制定した奨学金が妥当であるかどうかの調査。

2つ目は、各の事務所が主体となって、メコン5ヶ国の教育事情の相互理解の促進を図ること。

●昼食代や通学費は奨学金がなくても通学できる生徒も含んだ平均値です。

●この数値から見えるものは、中学への就学が貧困家庭にとって容易ではないことです。

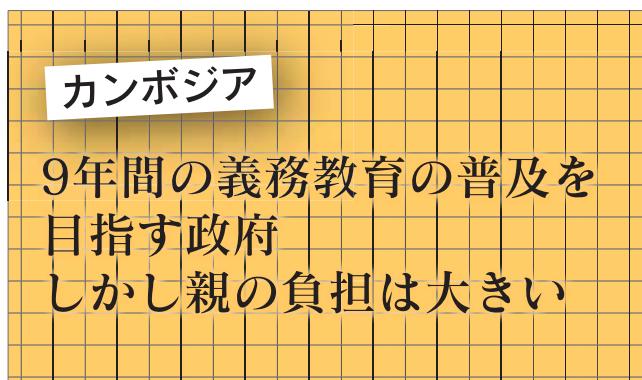
それが国全体の中学就学率の低い数字に表れており、国の発展の阻害要因になっています。

●25年におよぶタイの中学生に対するダルニー奨学金の提供は、今日のタイの発展に大きく寄与したといえるでしょう。

タイの経験を他のメコン4ヶ国が習得することでタイがたどった年月より早く到達できればと思っています。

●「純就学率」は学齢期の児童を対象とした数字です。

メコン5カ国の教育事情



左がチュオブ

教育青少年スポーツ省は、政府が締結した国連子どもの権利条約や憲法に基づいて、社会的地位、出身地、民族、宗教、言語、性別、障がいの有無に関係なく全ての人が基礎教育を受けられるように長期的な目標を持っており、当面、以下の4つの政策を掲げています。

- ①9年間の義務教育の普及と実用的な目的に沿った識字率の改善
- ②教育の内容を現代に合わせた効果的な改革
- ③労働市場の需要に合わせた教育の見直し
- ④学校教育以外の教育の再構築

こうした政策を実現するために、カンボジア政府は各学校に一律に375ドルと、中学生一人当たり4ドルの補助金を出しています。

しかし、カンボジアの中學卒業率はなかなか上昇しません。その理由は、経済的に貧しい家庭にとって中学校の通学に必要とする費用が大きな負担となっているからです。政府はこうした家庭の中学生に奨学生を提供していますが、該当する生徒数に比べて奨学生数が非常に限られています。

では一体、1年間にどのくらいの費用がかかるのでしょうか？

カンボジア事務局（EDFカンボジア）が151人の

生徒、父兄、先生、県・郡担当者にインタビューした結果、教育の費用は前ページの表のとおり学用品79ドル、昼食代52ドル、通学費117ドルです（数字は平均値です）。授業は午前と午後に分かれ、生徒はどちらかに出席します。カンボジアでは小学校は村内か近隣の村にありますが、中学校は相当に離れている場合が多く、自転車を購入するか、バスや船に乗らなければならない生徒もいます。バス代は1日往復で0.5ドル程度。さらに、学校には給食がないので、親がお弁当代として1回0.125～0.25ドルのお金を渡します。

〈奨学生の家庭生活〉

小学生の時ダルニー奨学生をもらっていたチュオブは中学生になって奨学生がなくなりました。「学用品の購入にお金がかかり大変です」と嘆くお母さんは苦しい台所事情を打ち明けました。「うちは田んぼを所有していないのですが、大家さんの親切で土地を借りて家族が消費する4ヶ月分を収穫します。それに野菜を栽培してその収入が少しありますが、それではとても足りず、チュオブは週末や夏休みにリゾート地で1日1.5ドルの収入があるアルバイトをして家計を助けてくれます」。3人姉妹の末っ子のチュオブの2人のお姉さんは、経済的理由でいずれも中学を中退しました。「中学になるともっとお金がかかる。チュオブもいつまで中学校に通い続けられるか…」。お母さんはチュオブの将来を案じて心配顔でした。



中学校は基礎教育ですが、ラオスでは義務教育は小学校までです。中学の授業料は無料ですが、入学時に平均22.5ドルの登録料（入学金）がかかります。この使途はコンピュータ室や図書などの使用料となっていますが、コンピュータ室や図書室がない学校も少なくありません。では、これらの学校では何に使うのでしょうか？十分な経費が政府から出ないため、電気代や水道代、蛍光灯や窓ガラスの購入、先生の家族が死亡した場合の見舞

金などに使われるようです。学校は独自に登録料を値上げすることもできます。さらに、生徒は制服と文房具を購入しなければなりません。制服はシャツ、ズボン／スカート、靴下、靴、ベルトです。体育の授業に体操着や運動靴を着用する生徒はわずかです。特に運動靴を履いている生徒はごく希で、裸足で校庭を駆け回っている生徒もいます。教科書を購入する生徒もいますが、購入費を節約するため、学校が保管している教科書を生徒が使うケースが多いようです。しかし、通常、数名で1冊を共有することになり、教科書に書き込みができず、家に持つて帰ることもできません。



カムヒヨー(手前左)と家族

また、学校では給食を提供しないので、生徒は家に帰って昼食を食べるか、家が遠い生徒は昼食またはスナックを購入します。毎日、子どもに昼食代を渡すことは、親にとって大きな負担です。

〈奨学生の家族生活〉

カムアン県の中学校に通うカムヒヨーは中1で奨学金をもらっています。兄が2人、弟が2人いますが、兄は二人とも小学校中退で、長兄は製材所で日雇いの仕事をしています。お父さんも日雇い労働です。弟は8歳（小2）と5歳で、お母さんは弟の面倒を見るため働きに出られません。お父さんもお兄さんたちはいつも仕事を見つけられるとは限りませんが、3人が力を合わせて働いているので、月50ドル程度の収入があります。しかし、家族が7人もいるので食費等の出費が大きく、生活はカツカツです。そのため、カムヒヨーの教育費を工面するのに四苦八苦です。

そのことをよく知っているカムヒヨーは学校に行く前、日課として水汲みと皿洗いをします。学校から帰ると、家の掃除や草木の水遣り、そして弟の面倒をみます。週末は田んぼで農作業を手伝ったり、森に入つて食べ物を見つかりします。

ベトナム						
小さな川は歩いて通学 大きな川は船に乗るが 乗船料金は月18ドル						

ベトナム政府は中学に通つて勉強が続けられるように、経済的に貧しい子どもに奨学金を提供していますが、この奨学金は農村地帯に限られています。都市部やその周辺の貧しい生徒には奨学金が提供されません。ベトナムでは公立中学校の授業料は無料ですが、図書やコンピュータなどの利用料金として10ドルを支払わねばなりません。加えて学校で補習授業を受ける場合、1科目につき月10ドルの授業料を支払います。2012年は「先進校モデルに追いつくために」という名目で、追加料金の支払いを要求する学校が増えました。中には月50ドルを要求する学校もあります。

学校には通常、食堂や食べ物の販売所がないので、生徒は家に帰つて昼食を食べます。もし昼食を学校の外で購入するとなると、普通のお店で購入することになるので、それだけ親の金銭的負担は増えます。通学に関しては、道が舗装されていないので自転車やバイクで通うのが難しく、たいていの子は歩いて通います。小さな川は歩いて渡りますが、大きい川があると船に乗らなければならず、その費用は月約18ドルです。



通学で毎日小さな川を渡るベトナムの子どもたち

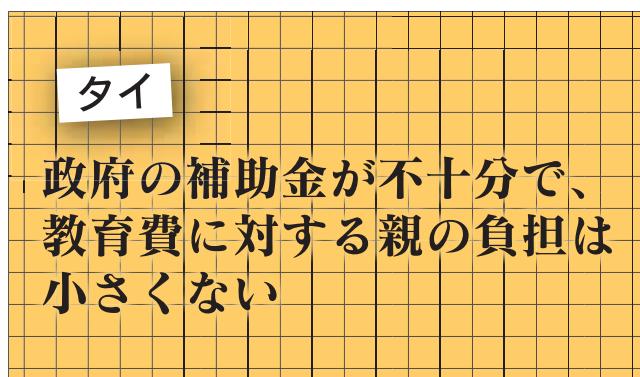
メコン5カ国の教育事情

〈奨学生の家族生活〉

タオは15歳ですが、まだ中1です。以前に重い病気をして3年間学校を休んだからです。お父さんは日雇い労働者、お母さんは農業をしています。カシューナッツ栽培からの収入が主ですが、家計は苦しく、600ドルの借金を背負っています。食費にも事欠く状況で、79ドルの教育費を支払うのも困難です。そのため、今年17歳になるお姉さんは数年前に中学校を中退してしまいました。お母さんは「奨学金がなければ、学校に通えなかつたでしょう。支援をしてくれた方には本当に感謝しています。子ども2人をなんとか食わせて、タオは中学校を卒業させてやりたいと思っています」とお礼を述べていました。



タオとその家族



タイ政府は義務教育にあたる小中学校に補助金を提供しています。2009年にスタートした教育政策では、教育に関する親の負担を軽減するため、補助金を提供する対象を制服、文房具、課外活動費など6つの項目を設けました。そのうち、親に現金が提供されるのは制服の購入のみで、親が制服を購入したら、その領収書を学校に提出することが義務付けられています。それ以外のものは、補助金を受けた学校が全校生徒分を購入して生徒に提供します。課外活動は図書室やコンピューター室の利用、修学旅行、ボーイスカウト・ガールスカウト活動のキャンプ地宿泊などを対象としています。

しかし、この補助金だけでは、生徒が必要とするものを十分購入することができません。タイ事務局(EDFタイ)が5つの学校で「親が支払う教育費の支出額」を調査したところ、以下のようない結果が出ました(数字は平均値です)。○課外活動(図書室利用、課外授業の専門講師の謝礼、PTA会合など)：23.33ドル○制服(及び靴下、ベルト、ボーイスカウト・ガールスカウト制服、体操着など)：65ドル○学用品(補助教材、文房具など)：53.33ドル合計：141.66ドル

本来、制服は2着分の補助金が計上されていますが、予算額が物価の高騰に追いつかず、親が支出せざるを得ない状況です。また、学校によっては課外活動で有機農業やハンドクラフト作りなどを教えており、その授業の講師に支払う報酬が補助額を上回ってしまう学校が少なくありません。

〈奨学生の家族生活〉

中1の奨学生、ウィライワンは毎日、親から0.5ドルもらって学校に行き、0.3～0.4ドルで昼食を購入します。残りを貯めて必要な文房具などを購入します。さらに親の負担を軽くするため、週末にサトウキビ畑で働き、1日約1.7ドルの収入を得ます。



ウィライワンとお母さん

「ノートは1冊0.6ドル、ペンは1本0.3ドルします。こうした文房具を自分のお金で買うようにしています」

ウィライワンが少しでも家計を助けようとする理由は2つあります。1つは父親が目の病気を患い（片目は失明）、その治療費がかかるから。2つ目は、ラオス出身の母親は正式な法手続きをとっておらず、ビザ延長代金として毎年125バーツを支払わなければならぬからです。「制服に14～15ドル、靴に9ドル、カバン5ドル、課外活動費に13ドルなど、昼食代抜きで年間約66ドルの費用がウィライワンの教育にかかります。子どもがもう一人いるので、収入が月33～40ドル程度の我が家家の家計には大きな負担です」とお母さん。お父さんのもう片方の目も失明の可能性があり、将来に大きな不安を感じています。



ミャンマーでは中学校の授業料は無料ですが、課外諸活動費（図書室利用、コンピュータ利用、PTA会合など）として10.58ドルかかります。制服（シャツとズボンまたはスカート）は2着で28.23ドル、それ以外の必要品（校内用の靴、傘、雨具、バッグなど）も購入しなければなりません。教科書は学校から支給されます。通学は徒歩が普通ですが、自転車で通学する生徒もいます。

都市部ではバス通学も見られます。学校に給食はなく、通常は親が子どもにお弁当代として0.3～0.4ドルを渡します。

〈奨学生の家族生活〉

ジュジュはヤンゴン区の中学生1年生で、3人きょうだいの真ん中です。お父さんはカブトムシを採取して販売。お母さんはお菓子などを売っています。2人合わせての収入は1日3.5ドル。お父さんは2年前に心筋梗塞を患い、毎週、私立の病院に通っていて、その費用がかかります。

ジュジュの夢は大学に行くことで、お父さんもそれを期待しています。その夢を実現するため、家計が大変なことを知りながら、彼女は必死の思いで学校に通っています。昨年から奨学金をもらって家計もジュジュの気持ちも楽になりましたが、授業に追いついていくため、2人のきょうだいといっしょに塾に通っていて、3人合計で月35ドルかかります。だから、彼女は時間があるときにできるだけお母さんの手伝いをします。少しでも両親の経済的負担を減そうと思っているからです。

「貧しい私たちはできるだけ生活を切り詰めて、3人の子どもの塾の費用を捻出しています」。お父さんはまだまだ希望を捨てない気構えでした。



ジュジュと家族

プレゼントセットの取り扱いが変わります

タイの子どもたちをご支援されている方のみを対象として、長い間プレゼントセットをお贈りしておりましたが、昨年12月よりスタートしたラオスにおけるプレゼントセットを機に、従来のプレゼントセットの仕組みが変わります。ご支援されている奨学生にプレゼントを贈る「プレゼントセット」は現在、奨学生をご支援されている方が対象となります（これは従来のままで）。しかし、学校にプレゼントを贈る「教育支援セット」は奨学生をご支援されていなくてもお申し込みが可能となります。その場合、当センターのタイ・ラオス各事務所が学校を選定します。価

格はタイとラオス共通で、プレゼントセットが1口8,000円、教育支援セットが1口20,000円です。また、

以前は年に2回のお振込みの締め切りがございましたが、随時申込を受け付けます。お問い合わせは担当：田中聰美まで。



ラオスのプレゼントセット

焼きとりよ、ありがとう

ニワトリが「コケコッコー」と鳴くのを知らない子どもが、残念ながらふえているそうです。

まるで工場で生産しているみたいに、トリ肉や卵が売られていますから、ニワトリの姿を目にする機会がないのです。

スーパーなどで売っているトリのから揚げと「コケコッコー」が結びつかない。

昔は、ちょっと郊外に出ると、農家はもちろん、勤め人の家でも、庭先を、ニワトリが走りまわっていたものでした。

父親がそれを締めて、食用におろすのを見たせいで、大人になってもトリを食べられない人がたまにいますね。

ところが東南アジアの国々では、いまだってニワトリが走りまわっている。

結局は食べられてしまう運命ですが、ニンゲンとニワトリが、暮らしをともにしている、ステキな情景ですね。

それもそのはず、ニワトリの飼育は大昔、タイやラオスあたりで始まったらしいのですから。「つきあい」の歴史が日本なんかよりはるかに長いのです。

このあたりには野生のニワトリ（野鶏——ヤケイ）が4種類ほど生息していました。それを人間が、農耕生活のはじまりとともに、飼いならし、「コケコッコー」で夜明けを知るのに利用し、やがて食用にしたらしい。

DNAを利用した最近の日本の研究では、それは8000年ほど前のこと、という説が強まっているそうです。

「ナマズ研究」の秋篠宮殿下は、ニワトリの研究でも功績を上げておられます。飼いならすまでの道筋を「行きつ戻りつ仮説」で遺伝的に裏付けなさった。

ニワトリが日本に渡来したのは弥生時代ごろらしい。江戸時代に品種がふえ、養鶏が盛んになったのは昭和になってから。

焼きとりを食べるたびに、タイやラオスの皆さんのご先祖に感謝したいですね。



轡田（くつわだ） 隆史 氏

1936年東京生まれ。元朝日新聞論説委員。欧米・東南アジア・中国・中東などを歴訪。元・テレビ解説者。NHK/FMラジオ「日曜喫茶室」に出演中。日本記者クラブ、日本ペンクラブ、日本エッセイスト・クラブに所属。著書に『「考える力」をつくる本』など。

※ 轡田氏のエッセイ連載は1年間（4回）を予定しています。

18回目で累計寄付金 総額1,000万円を突破!!!

MS&ADインシュアランス グループ
三井住友海上火災保険株式会社 君嶌 則行

去る2月15日、三井住友海上新川ビルにてMS&ADゆにぞんスマイルクラブとMS&AD軽音楽部の共催による「第18回バレンタイン・チャリティーコンサート」を開催いたしました。

今回の開催場所である新川ビルは、この「バレンタイン・チャリティーコンサート」の記念すべき第1回が開催された聖地です。1996年2月、音楽で繋がった十数人のメンバーにより、「バレンタイン・チャリティーコンサート」はここから歩き始めました。そして今回、第18回目の開催をもって、過去の寄付金総額が1,000万円を突破し、奨学生の累計数は354名となりました。この奨学金の支援を受けた子どもたちが、タイ・ラオス・カンボジアの未来を担う人間へと成長することを心より祈っております。

今回もグループの社員で構成される2つのバンド（総勢14人）が出演し、感謝の気持ちを込めて全14曲を演奏し、昨年同様に当社グループ・チアリーディングチーム「ドルフィンズ」（6名）とのコラボレーションも行われ、会場を盛り上げてくれました。

そしてこれからも、第19回、第20回……と「バレンタイン・チャリティーコンサート」を担ってくれる部員たちがその歩みを止めないように！タイ・ラオス・カンボジアの子どもたちの未来が「光の射す方へ！」。皆様、本当に有難うございました。



ドナーがタイの元奨学生と 北海道で再会！

メイさんは今年34歳。地元タイ東北地方で看護師として働いています。

中学校から高校まで、北海道に住む西田哲也さんからダルニー奨学金の提供を受け、さらに4年間通った看護大学の費用も提供してもらいました。西田さんは一度タイを訪問してメイさんに会ったことがあります。今回は2回目の対面。「20年間に約140通の手紙がメイからきました。大学の費用は郵便局経由で個人的に送金しました。メイが北海道に来て思い出深い5日間を過ごすことができました。支援して本当によかったです」と西田さん。「日本のお父さん」に会えたメイにとても忘れられない思い出となりました。



右からメイさん、
西田さん、
メイさんの妹の
ワンさん

職場の組合誌で宣伝



1990年から支援をしている東矢さんは東京都杉並区の区役所に勤務する公務員。現金や募金箱の設置など様々な方法で支援をしていますが、その1つに職員の互助組合が発行する雑誌（写真）に定期

的に書き損じハガキなどを「譲ってください」と記事を掲載して集めたハガキでも支援をしています。毎年たくさんのはがきが集まります。「ラオスの旅行に参加して支援している子どもに会い、その写真を掲載するので、その効果があるのでは」と東矢さん。昨年は1,154枚のハガキ、89枚の未使用テレカ他が集まりました。

書き損じハガキを集め、13年連続支援



札幌市立向陵中学校
生徒会会長 土橋 佑香
つちはし ゆうか

の募金を集めることができました。学校に行くことができるようになった奨学生たちについては、生徒会放送やお便りを通じて全校生徒にお知らせしています。また、写真やプロフィールは額に入れ、生徒会室の前に掲示しています。

本校は、他にも書き損じハガキの回収も行っています。また、地域の中学校と連携してリングプルの回収活動も行っており、札幌市身体障害者福祉協議会に車椅子を贈っています。今年度は車椅子贈呈式を本校で行ったため、式の後、生徒の関心が以前より高まり、リングプルの回収率も増えました。だからこそ、全校生徒がダルニー奨学金募金活動への関心をさらにもち、1人でも多くの人が学校に通うことができるよう、これからも生徒会が中心となってこの活動に力を入れていきたいと思っています。※同校は平成12年（2000年）から毎年継続して支援し、これまで延べ62人の奨学生を支援しました。

新潟の学生グループ 「ラオスク」がパネル展示会

昨年、ラオスに図書館を建て、贈呈式に参加して子どもや村人と交流した新潟の学生グループ「ラオスク」が1月11～31日、新潟県国際交流協会が入っているビルで、これまでの活動や図書館の様子などの写真を展示了「ラオスの子ども展」を開催しました。

会場では、活動の支援をしてくれた企業や個人の方々に感謝の意を述べ、活動報告を行い、今後の活動へのより一層の支援をお願いしました。主催のラオスクのメンバーは「ご支援をしていただいた皆様のおかげで、素晴らしい展示をすることができました。そして、このパネル展を通じて、これまでの私たちの活動、そしてこれから何をすべきかを再確認しました。これからも、ラオスの子どもたちのキラキラした笑顔につなげられるよう活動を続け、支援の輪を広げていきたい」と述べ、今後の活動のさらなる意欲を燃やしました。



事務局活用リスト

事務局ではさまざまな資料やサービスを用意して、ドナーの皆様のお問い合わせやご要望にお応えしています。

※ご利用につきましては、以下の要領でご連絡願います。

地域で奨学生や図書セットを広める活動をしたい

- ①書き損じハガキ・未使用テレカの収集
- ②使用済みインクカートリッジの収集
- ③パンフレットまたはリーフレットの設置
- ④不要な本を集めてブックオフに送る
- ⑤募金箱を設置したい

お気軽にお電話またはメールでお問い合わせください。折り返し資料などをお送りします。また、ホームページでも紹介しておりますので是非ご覧ください。

奨学生や現地のビデオを見たい

DVDは現地情報満載の広報ビデオ(13分)。パネルを貸し出すこともができます。送料は負担願います。

個人でタイを訪問し、奨学生に会いたい

80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください(メール可)。折り返し、資料をお送りします(3~5月と10月、学校はお休みのため訪問できません)。

タイの奨学生と文通したい

- ①手紙の翻訳
- ②タイの切手購入

- ①:タイ語→日本語に翻訳します。手紙の原本と80円切手4枚を同封して送ってください。
- ②:タイ切手セット(12回分1000円)の代金は郵便定額小為替か現金でお願いします。
80円切手を貼った返信用の封筒も同封してください。

※奨学生の氏名をカタカナで読みたい方は、電話、メール、ファックスでお問い合わせ下さい。

民際事務局でボランティアをしたい

PC入力、DTP経験者、事務作業など。電話またはメールで担当、窓口までお問い合わせください。

奨学生の説明を聞きたい

事務局では随時無料説明会を行っています。参加希望の方は必ずご予約ください。

毎年忘れずに送金したい

お申し込みいただければ、銀行自動引落申込書をご送付いたします。

編集後記

民際センターとは別のNGOに勤務していた10数年前、パレスティナ難民キャンプに派遣されたことがあります。パレスティナとイスラエルの長年にわたる紛争、加えてユダヤ教とキリスト教のゆかりの地が多いことから、欧米の名だたるNGOが活動していました。驚いたのは、その中に会員が10万人を超え、また予算が億を超える事業を複数の国で同時に実施し、それを市民の寄付だけで賄っているNGOが1つや2つではなかったことです。米国のカトリック系NGOは全米のカトリック教会からの数回の寄付で、有給専従スタッフ150名の経費が賄えるそうです。一方、ヨーロッパの非キリスト教系NGOも豊富な資金を誇っていました。「小・中・高・大を通じて国際理解教育を積極的に行っているので、彼らが社会人になると良き支援者になるのです」。当時、私が属していたNGOの会員は約800名。「経済大国ニッポンのNGOなのに、そんなに少ないの!それで一体、どうやって社会にインパクトを与えることができるの?」と彼らは驚きます。本当にねえ、一体どうやったら社会にインパクトを与えるほどの支援者を得ることができるのでしょうか・・・。(富)



一般財団法人
民際センター

ダルニー通信 第70号 2013年6月1日発行 発行人:秋尾晃正
一般財団法人民際センター 〒162-0801 東京都新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F
TEL: 03-6457-5782 FAX: 03-6457-5783
Eメール: info@minsai.org ホームページ: http://www.minsai.org/
振替口座: 00150-0-57664 (奨学生専用口座)
表紙: ラオス 撮影: 渡部 明浩



SPOT LIGHT

.....

学生団体Switchがカンボジアで運動会

Switchは関東の大学生が集まって、交流を目的に運動会を開催しています。その参加費でカンボジアの奨学生を支援しています。今年3月、支援する奨学生のいるカンボジアの村で運動会を開催しました。多くの発展途上国では国語や算数の授業はあっても、道徳など「心の教育」がまだ行われていません。ルールを守ったり、仲間と協力したり、同じ目標に向かってチームで取り組んだりすることを運動会を通して楽しく学んでもらおう——それが運動会開催の目的です。開催場所はコンポンチュナン県Taches村。カンボジア事務局（EDFカンボジア）の協力を得て、Switchのメンバー24名は同村のWat Thmei小学校の子ども達と徒競走、靴飛ばし、馬跳び、玉入れ、リレーなどを楽しみました。カンボジアの小学生にとって初めの経験。ルールを説明し、チームを組んで競技を楽しみました。そして、お別れする前に訪問の記念に学校の校庭に木を植えました。

